

# 令和4年度



# 平和大使育成事業

# 事業報告書





## 市長あいさつ

本市におきましては、昭和60年に「宜野湾市反核、軍縮を求める平和都市宣言」を行い、その理念の下、平和の尊さや平和思想に対する啓発及び戦争と復興の歴史の経験を継承することを目的とする平和事業を推進しております。



その一環として、平成17年より「平和学習派遣事業」として、市内中学生8名を毎年8月9日に長崎で開催される「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」及び「青少年ピースフォーラム」に派遣し、戦争の愚かさ、悲惨さ、平和の大切さを学んでいただく事業を推進して参りました。これまで延べ112名の生徒を派遣しております。

戦後77年が経過し、年々戦争体験者が減少する中、あらためて戦争の悲惨さや平和の尊さをしっかりと後世へ伝えていくことの重責を感じている次第でございます。

さて、本市は令和2年度より「平和大使育成事業」を開始し、今年度で、延べ27名の大使が誕生いたしました。平和大使の絆の構築と世代間の繋がり創出を目的として当事業を推進することにより、戦争の悲惨さや命の尊さを次代へ継承する人材の育成を図ってまいります。

今年度は、県内各地の戦跡を巡る事前学習のほか、3年ぶりに被爆地・長崎への派遣が叶い、全国の青少年とともに青少年ピースフォーラム及び長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典等に参加しました。日本各地の戦争やこれまで学んだ平和学習などについて、話し合いを深める中で、戦争の悲惨さや平和な世の中を継承していくことを見つめなおす貴重な機会になったことと存じます。

また、ロシアによるウクライナ侵攻が始まり約1年が経とうとしている今日、だれもが予想できない状況が続く中、「平和」がいかに大切であるか、平和な世界を創りあげていくために、どのように伝えていくべきか、一人ひとりがその課題に向き合いながら、平和大使とともに繋がり輪を広げてまいりましょう。

令和4年度平和大使におかれましては、これからも引き続き本市の平和推進事業へ積極的に参加し学びを深めていただくと共に、大使同士の絆の構築と平和な社会の創造にお力添えいただくよう、期待申し上げます。

結びに、本事業の実施にご理解・ご協力を賜りました教育機関、保護者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、市民の皆様には、平和な社会の創造に大きく貢献していただき、近い将来「戦争も核兵器もない、平和で希望のある世界」が実現されることを祈念いたします。

令和5年3月  
宜野湾市長 松川 正則

# 目次

平和大使育成事業概要	3
団員名簿	4
認定証交付式及び事業説明会	5
事前学習	6
長崎派遣	9
青少年ピースフォーラム	12
長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典	15
新聞づくりワークショップ	19
その他の活動（平和祈念事業）	20
広報等	21
学習報告会	22
平和大使研修報告	23
普天間中学校    1年    屋慶名    夏葵	24
普天間中学校    1年    儀間    生吹	26
真志喜中学校    1年    照屋    愛心	28
真志喜中学校    1年    宮城    杏	30
嘉数中学校        1年    川満    俊輔	32
嘉数中学校        1年    岸本    樹奈	34
宜野湾中学校    1年    東江    亜珠	36
宜野湾中学校    1年    親川    拓海	38
沖縄国際大学大学院    1年    比嘉    夏香	40
令和3年度平和大使    フォローアップ研修	42
宜野湾市平和大使育成事業実施要綱	46
宜野湾市平和都市宣言	48
歴代宜野湾市平和大使	49

# 事業概要

## 1. 背景と目的

戦後77年余りが経過し、かつて沖縄戦において悲惨な体験をした世代が減少している今日、戦争を知らない世代、特に若い世代が平和について学ぶ機会を作ることは、本市の平和行政を推進する観点から大変重要なことです。

特に本市においては、沖縄戦当時、嘉数地区に日本軍の前哨基地があったことから、市内で激しい戦闘が繰り広げられ、多数の住民が犠牲になりました。

この過去の事実をしっかり捉え、戦争を知らない世代に正しく継承していくことは私たちの責務です。

本市では、平成31年度まで実施していました「宜野湾市平和学習派遣事業」を、世界平和を希求する「宜野湾市反核、軍縮を求める平和都市宣言」の理念の下、戦争の悲惨さ、平和の大切さ及び命の尊さを次代へ継承する人材を育成するため、令和2年度より事業名を「宜野湾市平和大使育成事業」とし、平和行政の推進に取り組んでいます。

毎年8月9日に長崎で開催される「平和祈念式典」及び「青少年ピースフォーラム」へ参加し、全国の青少年と交流をする中から命の尊さや平和の大切さを学ぶことにより、これからの平和な社会を築くことを目的とします。

## 2. 実施経過

令和4年7月8日	平和大使認定証交付式 及び 事業説明会
令和4年7月28日	事前学習（バスツアー、識者の講話）
令和4年8月7～10日	長崎派遣 「平和祈念式典」及び「青少年ピースフォーラム」に参加
令和4年8月12日	新聞づくりワークショップ
令和4年9月～10月	《平和祈念事業》中学校平和イベントにて研修報告（市内4中学校）
令和4年11月6日	《平和祈念事業》市民平和イベントにて研修報告（サンエー宜野湾コンベンションシティ）
令和4年12月6日	市長、教育長、学校関係者及び保護者向け学習報告会
令和4年12月27日	令和3年度平和大使フォローアップ研修

団員名簿（令和4年度平和大使育成事業）

学校名・教育機関名	氏名	学年
普天間中学校	やけな なつき 屋慶名 夏葵	1年
	ぎま いぶき 儀間 生吹	1年
真志喜中学校	てるや あいみ 照屋 愛心	1年
	みやぎ あん 宮城 杏	1年
嘉数中学校	かわみつ しゅんすけ 川満 俊輔	1年
	きしもと じゅな 岸本 樹奈	1年
宜野湾中学校	あがりえ あんじゅ 東江 亜珠	1年
	おやかわ たくみ 親川 拓海	1年
沖縄国際大学大学院	ひが なつか 比嘉 夏香	1年
宜野湾市役所 市民協働課	ふてんま なな 普天間 奈々	事務局
	ひが ひめの 比嘉 姫野	事務局



# 認定証交付式 及び 事業説明会

日時：令和4年7月8日（金）

場所：宜野湾市役所 3階 第3常任委員会室

## 認定証交付式

1. 認定証交付
2. 市長あいさつ・・・宜野湾市長 松川 正則
3. 自己紹介（平和大使）

## 事業説明会

1. 事業詳細と今後の流れ  
①事前学習 ②長崎派遣 ③中学校イベント ④市民啓発イベント ⑤学習報告会  
⑥フォローアップ研修（次年度）
2. 委託業者紹介（SITY 株式会社）
3. 質疑応答
4. 市教育委員会 指導課長あいさつ・・・佐伯 進 指導課長



（1列目左から）

屋慶名夏葵さん、儀間生吹さん、松川市長、照屋愛心さん、宮城杏さん

（2列目左から）

岸本樹奈さん、川満俊輔さん、親川拓海さん、東江亜珠さん、比嘉夏香さん

事前学習 バスツアー（7月28日）行程表

No.	時間	場所(※移動時間)	所要時間	備考
①	8:30	市役所前集合  ※20分		
②	8:50～9:30	嘉数高台公園	40分	
③	9:30～10:10	車内ガイド  ※40分	40分	
④	10:10～11:10	平和祈念資料館	60分	
⑤	11:10～12:10	昼食  ※20分	60分	
⑥	12:30～14:00	アブチラガマ  ※60分	90分	
⑦	15:00	市役所到着～解散		インタビューの撮影後、解散(所要10分)



## 事前学習 バスツアー（7月28日）

### ● 嘉数高台公園（宜野湾市）

宜野湾市内を一望できる展望台では、太平洋戦争や嘉数の戦い（沖縄戦の上陸から最初の激戦）について学習しました。



▲アイスブレイクで緊張をほぐしました



▲沖縄戦の経緯や戦後の状況について学習



▲沖縄戦の展開についてグループに分かれ学習

### ● 車窓から（宜野湾市→糸満市）

移動中の車内でも、当時の写真や証言を窓から見える景色と見比べながら、南部撤退の足取りについて学習しました。



- ・ 嘉数の戦いに敗れ嘉数高地が占領されたこと
- ・ 日本軍司令部本部をかけた激戦について
- ・ 南部撤退の際になぜ糸満市側を選んだかについて
- ・ 組織的戦争が終了した後の戦闘について（敗残兵等）等  
合計 10 地点のガイド

### ● 沖縄平和祈念資料館（糸満市）

資料館内にある戦争体験者の証言集から、当時の様子を調べました。その後、平和の礎で自分が調べた方の名前を探し、調べた内容をもとにガイドを実践しました。証言集に書かれている内容だけではなく、自分の思いや考えも織り交ぜながら工夫して伝えることができました。（代表で青年層の比嘉夏香さんが実践）



## 事前学習 バスツアー（7月28日）

### ● 系数アブチラガマ（南城市）

「沖縄戦の縮図」とも言われる系数アブチラガマに入壕しました。専属のガイドから、ガマに避難してきた住民の様子や、負傷した日本兵、それを看護するひめゆり学徒隊についてお聞きしました。また、持っている懐中電灯を一斉に消し、当時の暗闇を体験することができました。出口近くの慰霊碑では、亡くなられた方々へ黙祷を捧げました。



▲ガマ入口



▲ガマの特徴について学習



▲解説員さんと一緒に

### ● 沖縄国際大学名誉教授 石原 昌家氏によるオンライン講話（別日）

オンライン配信にて、石原 昌家氏から沖縄戦における軍隊と住民の関係や国際平和の在り方についてお聞きしました。また、事前に講話に関する新聞記事を読み、学びを深めました。

# 長崎派遣（8月7日～10日） 行程表

日付	時間	日 程	食事	宿泊地
第1日目 8月7日 (日)	8:00 9:40 11:25 12:00 15:00 18:30 20:00 21:00	那覇空港国内線3階ANAツアーカウンター前集合 那覇発 全日空1202便にて福岡へ 福岡空港着 荷物受取り 貸切りバスにて長崎へ（所要時間/約2時間30分/別途小休憩あり） ※バス車内にてお弁当配布(お茶付)いたします。バス車内にて黙食にご協力ください。 貸切りバスにて長崎市内視察 ◎城山小学校平和祈念館 ◎山王神社(二の鳥居・大クスの木) ◎出島資料館	昼食  夕食	
第2日目 8月8日 (月)	7:00 9:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:25 18:30 20:00	ホテルにて朝食 各自市電にて原爆落下中心地へ移動 現地ガイドによる見学(◎浦上天主堂 ◎如己堂 ◎平和公園など/2時間) 平和公園にて解散⇒◎原爆資料館を見学予定(見学時間50分程度) 園田真珠にて昼食 ピースフォーラム参加受付<平和会館ホール> 開会行事(被ばく体験講和など)<平和会館ホール> 班別交流会(15:25~18:00) 青少年ピースフォーラム(Aコース)	朝食  昼食  夕食	長 崎
第3日目 8月9日 (火)	7:00 12:00 13:30 19:00	ホテルにて朝食 各自市電にて平和公園前へ移動 「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」への参列 ※平和公園 または 中継会場にて参列を予定しております。 和泉屋にて昼食 青少年ピースフォーラム(Aコース/13:30~15:30)<出島メッセ長崎> レストランにて夕食(旅行社手配)	朝食  昼食  夕食	
第4日目 8月10日 (水)	7:00 8:00 11:00 12:00 13:30 15:00 16:45	ホテルにて朝食 専用バスにて移動(所要時間/約2時間30分/別途小休憩あり) 福岡市博物館(見学時間45分) 福岡空港周辺にて昼食・お土産購入(所要時間60分程度) 福岡空港着 ⇒ 搭乗手続き 福岡発 ANA1209便にて沖縄へ 那覇空港着 ～～ 解散。 お疲れ様でした。 ～～	朝食  昼食	☆☆☆

# 長崎派遣（8月7日～10日）

8月7日（日）

長崎到着後から学習を開始し、ガイド案内のもと長崎市内を視察しました。

コース：沖縄出発～長崎市内視察（城山小学校平和祈念館、山王神社（二の鳥居・大クスの木） → 出島資料館 → 稲佐山ロープウェイ



▲沖縄出発



▲城山小学校平和祈念館



▲城山小学校 被爆当時の校舎の模型



▲山王神社（大クスの木）



▲山王神社（二の鳥居）



▲出島資料館



▲稲佐山ロープウェイ

長崎派遣（8月7日～10日）

8月8日（月）

平和ガイドによる案内で、原爆による爪痕が生々しく残る浦上天主堂や如己堂、平和公園、原爆落下中心地などの被爆遺構地を巡りました。

コース：浦上天主堂 → 如己堂 → 平和公園 → 長崎原爆資料館の見学



▲浦上天主堂



▲如己堂



▲平和公園



▲今なお残る、被爆当時の地層を見学



▲長崎に投下された原子爆弾の実物大模型  
（長崎原爆資料館）



▲ご飯の様子



運転手さん、ガイドさん  
ありがとうございました！

# 青少年ピースフォーラム（8月8日～9日）

## 令和4年度 青少年ピースフォーラム

期日：令和4年8月8日（月）～9日（火）

主催：長崎市

### 目的

8月9日の平和祈念式典にあわせて、全国の自治体が派遣する平和使節団と長崎の青少年と一緒に、被爆の実相や平和の尊さを学習し交流を深めることで、平和意識の高揚を図ることを目的として実施されています。

### 参加者

全国の自治体が派遣する平和使節団。ピースフォーラムには、長崎市青少年ピースボランティアの高校生や大学生も参加し、平和学習の進行やフィールドワークの案内などを行っています。

本市は、平和学習 A コースに参加しました。

日	時	内 容 <場 所>	
1 日目	14:00 ～15:15	1) 開会行事（被爆体験講話など）<平和会館 <sup>※</sup> ホール>	
		【コース別の平和学習】長崎原爆の実相について学びます。	
8/8 (月)	15:25 ～18:00	<< A コース >> 2) 平和学習<平和会館ホール> こぢんまりフィールドワーク (屋外) ほか<原爆資料館 <sup>※</sup> 周辺>	<< B コース >> 2) 被爆建造物等の フィールドワーク (屋外) <原爆資料館周辺>
2 日目	午 前	3) 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典への参列 <平和公園または中継会場：原爆資料館ホール/出島メッセ長崎 <sup>※</sup> >	
8/9 (火)		【コース別の平和学習】平和について考えます。	
	13:30 ～15:30	<< A コース >> 4) 平和学習 <平和会館ホール>	<< B コース >> 4) 平和学習 <長崎ブリックホール国際会議場 <sup>※</sup> >

# 青少年ピースフォーラム（1日目）

## ● 開会行事（市長あいさつ、被爆者の講話）



### 被爆体験講話者の紹介 | 山田一美さん

国民学校6年生（12歳）の時、爆心地より2.3kmの路上で被爆。突如、真夏の太陽より更に明るい閃光に包まれ、ものすごい熱さに死を覚悟したが、幸い岩陰にいたため怪我もなく無事だった。自宅近くの溝に祖母・叔母と家族3人で身を潜めながら、破れた衣服で、怪我をして、幽鬼のように歩いて行きたくさんの被爆者を見ていた。原爆の無差別性、非人道性を知ってほしい。

### ▲被爆者の講話

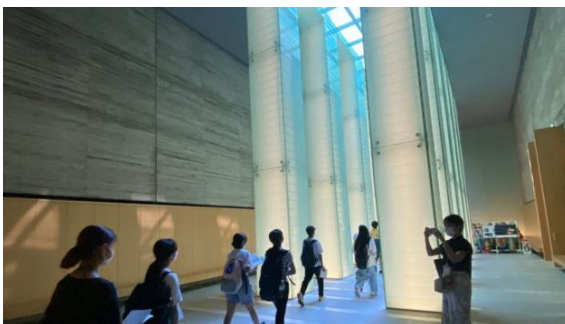
## ● 長崎原爆の実相について（被爆戦時下について学習、こどもまりフィールドワーク）



コース毎に分かれ全国の青少年と、長崎原爆の実相や被爆戦時下について学びました。原爆の恐ろしさを映像で、空襲警報を音で体感し会場の異様な静寂さに緊張が続きました。

### フィールドワークコース

① 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 → ② 原爆殉難教え子と教師の像 → ③ 「未来を生きる子ら」の像 → ④ 原爆資料館 展望デッキ



### ▲フィールドワークの様子（左：①国立原爆死没者追悼平和祈念館 右：④原爆資料館 展望デッキ）

屋外フィールドワークでは、国立原爆死没者追悼平和祈念館や、原爆資料館の展望デッキから原爆落下地の地形などを一望し、原爆がもたらした被害の大きさを知りました。

# 青少年ピースフォーラム（2日目）

1班 12名程度（自治体参加者 10名程度、進行役のピースボランティア 2名）のチームになり、テーマに沿った意見交換を行い、これからの平和について考えました。

テーマ1	「フォーラム1日目の学習で、一番印象に残っていること」 「自分の住む地域で取り組んでいる平和学習」について、発表しよう。
テーマ2	「ケンカ・戦争」の原因は何だろう？
テーマ3	「ケンカ・戦争」をなくすには、どうしたらいいかな？（解決策）



▲意見交換 全体の様子



▲平和大使 意見交換の様子



▲平和大使 意見交換の様子



▲My 平和宣言



▲My 平和宣言と一緒に記念撮影



▲ピースフォーラム参加者との記念撮影



# 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典（8月9日）

8月9日は、長崎市の平和公園にて開催された「被爆 77 周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」に参列しました。長崎で原爆がさく裂した8月9日午前 11 時 2 分に、原爆犠牲者への慰霊のため黙祷を行いました。原爆で犠牲となった方々のご冥福と恒久平和を祈り、長崎や沖縄で起きた悲劇が繰り返されることのないよう多くの人に伝え、平和を継承していくことを誓いました。

## 式次第


10:40	被爆者合唱
10:45	開式
10:46	原爆死没者名奉安
10:48	式辞
10:52	献水
10:54	献花
11:02	黙祷
11:03	長崎平和宣言
11:12	平和への誓い
11:19	児童合唱
11:24	来賓挨拶
11:40	合唱 千羽鶴
11:45	閉式



▲式典会場



▲平和祈念像の前で記念撮影



## 長崎平和宣言

核兵器廃絶を目指す原水爆禁止世界大会が初めて長崎で開かれたのは 1956 年。このまちに 15 万人もの死傷者をもたらした原子爆弾の投下から 11 年後のことです。

被爆者の渡辺千恵子さんが会場に入ると、カメラマンたちが一斉にフラッシュを焚きました。学徒動員先の工場で 16 歳の時に被爆し、崩れ落ちた鉄骨の下敷きになって以来、下半身不随の渡辺さんがお母さんに抱きかかえられて入ってきたからです。すると、会場から「写真に撮るのはやめろ！」「見世物じゃないぞ！」という声が発せられ、その場は騒然となりました。

その後、演壇に上がった渡辺さんは、澄んだ声でこう言いました。

「世界の皆さん、どうぞ私を写してください。そして、二度と私をつくらないでください」。核保有国のリーダーの皆さん。この言葉に込められた魂の叫びが聞こえますか。「どんなことがあっても、核兵器を使ってはならない！」と全身全霊で訴える叫びが。

今年 1 月、アメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国の核保有 5 か国首脳は「核戦争に勝者はいない。決して戦ってはならない」という共同声明を世界に発信しました。しかし、その翌月にはロシアがウクライナに侵攻。核兵器による威嚇を行い、世界に戦慄を走らせました。


この出来事は、核兵器の使用が“杞憂”ではなく“今ここにある危機”であることを世界に示しました。世界に核兵器がある限り、人間の誤った判断や、機械の誤作動、テロ行為などによって核兵器が使われてしまうリスクに、私たち人類は常に直面しているという現実を突き付けたのです。

核兵器によって国を守ろうという考え方の下で、核兵器に依存する国が増え、世界はますます危険になっています。持っていて使われることはないだろうというのは、幻想であり期待に過ぎません。「存在する限りは使われる」。核兵器をなくすことが、地球と人類の未来を守るための唯一の現実的な道だということを、今こそ私たちは認識しなければなりません。

今年、核兵器をなくすための 2 つの重要な会議が続きます。

6 月にウィーンで開かれた核兵器禁止条約の第 1 回締約国会議では、条約に反対の立場のオブザーバー国も含めた率直で冷静な議論が行われ、核兵器のない世界実現への強い意志を示すウィーン宣言と具体的な行動計画が採択されました。また、核兵器禁止条約と核不拡散条約（NPT）は互いに補完するものと明確に再確認されました。

そして今、ニューヨークの国連本部では、NPT 再検討会議が開かれています。この 50 年余り、NPT は、核兵器を持つ国が増えることを防ぎ、核軍縮を進める条約として、大きな期待と役割を担ってきました。しかし条約や会議で決めたことが実行されず、NPT 体制そのものへの信頼が大きく揺らいでいます。



## 長崎平和宣言

核保有国はこの条約によって特別な責任を負っています。ウクライナを巡る対立を乗り越えて、NPTの中で約束してきたことを再確認し、核軍縮の具体的プロセスを示すことを求めます。

日本政府と国会議員に訴えます。

「戦争をしない」と決意した憲法を持つ国として、国際社会の中で、平時からの平和外交を展開するリーダーシップを発揮してください。

非核三原則を持つ国として、「核共有」など核への依存を強める方向ではなく、「北東アジア非核兵器地帯」構想のように核に頼らない方向へ進む議論をこそ、先導してください。

そして唯一の戦争被爆国として、核兵器禁止条約に署名、批准し、核兵器のない世界を実現する推進力となることを求めます。

世界の皆さん。戦争の現実がテレビやソーシャルメディアを通じて、毎日、目に耳に入ってきます。戦火の下で、多くの人の日常が、いのちが奪われています。広島で、長崎で原子爆弾が使われたのも、戦争があったからでした。戦争はいつも私たち市民社会に暮らす人間を苦しめます。だからこそ、私たち自らが「戦争はダメだ」と声を上げることが大事です。

私たちの市民社会は、戦争の温床にも、平和の礎にもなり得ます。不信感を広め、恐怖心をあおり、暴力で解決しようとする“戦争の文化”ではなく、信頼を広め、他者を尊重し、話し合いで解決しようとする“平和の文化”を、市民社会の中にたゆむことなく根づかせていきましょう。高校生平和大使たちの合言葉「微力だけど無力じゃない」を、平和を求める私たち一人ひとりの合言葉にしましょう。

長崎は、若い世代とも力を合わせて、“平和の文化”を育む活動に挑戦していきます。

被爆者の平均年齢は84歳を超えました。日本政府には、被爆者援護のさらなる充実と被爆体験者の救済を急ぐよう求めます。

原子爆弾により亡くなられた方々に心から哀悼の意を表します。

長崎は広島、沖縄、そして放射能の被害を受けた福島とつながり、平和を築く力になろうとする世界の人々との連帯を広げながら、「長崎を最後の被爆地に」の思いのもと、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に力を尽くし続けることをここに宣言します。

2022年（令和4年）8月9日

長崎市長 田上富久

## 平和への誓い

まず初めに、ウクライナでの多くの犠牲者に心から追悼の意を表します。容赦ない無差別攻撃は、77年前の無実の長崎市民が体験した原爆投下と重なります。断じて許しません。

今年2月24日、ウクライナに鳴り響く空襲警報のサイレンは、あのピカドンの恐怖そのものでした。77年前の8月9日、長崎に投下された原子爆弾の爆風によって、爆心地から2.4kmの自宅にいた5歳の私の小さな体は、8畳間から玄関口まで吹き飛ばされ、母親の胸の中で目覚めました。今もあの時の母親の胸の鼓動が耳に残っています。

あの夜、山越えて我が家に逃げてきた看護婦さんは、髪は逆立ち、左目は飛び出し、「水をください。」と言ったまま、私たち家族の前で絶命しました。爆心地の松山町へ救援に赴いた父は、黒焦げの焼死体となった叔父と叔母を発見し、その私の父も5年後に白血病で亡くなりました。

今、82歳の私は、10年前に発症したがんの悪化で苦悩の日々を過ごしています。多くの被爆者は、私以上の苦しみに耐えて生き抜いています。

本日ご列席の国会議員、県議会・市議会議員の皆様、被爆者と対面し、被爆者の心のお痛みと被爆の実相を聞いて、世界に伝えてください。私は6月、ウィーンで開かれた核兵器禁止条約第1回締約国会議に参加し、会場や路上で「HIBAKUSYA」と書いたゼッケンを着用して訴えました。

“Please visit Nagasaki. To see is to believe, No more Nagasaki, Stop Ukraine”

第二次世界大戦から77年後の今、ロシアの核兵器の使用を示唆する警告によって、世界は核戦争の危機に直面しています。日本の一部の国会議員の核共有論は、私たち被爆者が願う核の傘からの価値観の転換とは真逆です。核共有論は、「力には力」の旧由来の核依存思考であり、断じて反対です。核は抑止にあらず。今こそ日本は、核の傘からの価値観を転換し、平和国家の構築に全力を挙げるべきです。

そのためには、日本は歴史に学び、北東アジア非核兵器地帯を宣言し、日本国憲法第9条を厳守してください。あの第二次世界大戦の英霊約300万人と長崎原爆犠牲者約20万人の願いを込めて、二度と戦争をしない国民の強い意志と、国家としての戦争放棄は、戦後、確かに国民の命を守ってきました。対話による平和外交こそ、新たな時代への挑戦です。特に、被爆地選出の岸田首相の行動力に大いに期待します。

そして、日本政府は核兵器禁止条約に署名・批准してください。昨年発効した核兵器禁止条約は、被爆者と人類の宝です。この条約を守り、行動することは、唯一の被爆国である日本政府と国民一人のひとりの責務であると思います。締約国会議にオブザーバーとして参加した各国からも、この条約に対する熱烈な期待が発言され、私は勇気をもらいました。

私たち被爆者は、この77年間、悲しみも苦しきも乗り越えて、生きてまいりました。これからも私たちは、世界の市民社会と連携して、核兵器のない明るい希望ある未来を信じて、さらにたくましく生きていきます。核兵器禁止条約をバネに、新しい時代の始まりであることを自覚し、私たちは強い意志で、子、孫の時代に「核兵器のない世界実現への願い」を引き継いでいくことを誓います。

2022年（令和4年）8月9日

被爆者代表 宮田 隆

# 新聞づくりワークショップ（8月12日）

長崎派遣を終えた8月12日、事前学習や長崎で学んだことを新聞にまとめるワークショップを行いました。

- グループに分かれて長崎派遣の振り返り



- 構成を考えながら新聞を作成



- 新聞内の本文について発表



平和大使が作成した新聞については、23 ページからの研修報告をご覧ください

その他の活動（平和祈念事業）

- 【平和祈念事業】 中学校イベントでの研修報告（9～10月 市内各中学校）



▲ 普天間中学校



▲ 真志喜中学校



▲ 嘉数中学校



▲ 宜野湾中学校

- 【平和祈念事業】 市民イベントでの研修報告・平和大使の活動パネル展（11月6日 サンエー宜野湾コンベンションシティ）



▲ トークショーの様子



▲ 平和劇の上演



▲ 開始前には、平和大使自ら宣伝も行いました！



▲ 作成した新聞や活動の様子を展示しました

# 広報等

- 市報掲載



市報 10月号 掲載



市報 3月号 掲載

- 新聞掲載

沖縄タイムス

- ・ 7月16日（認定証交付式について）
- ・ 10月18日（中学校イベント研修報告について）
- ・ 1月11日（学習報告会について）

琉球新報

- ・ 12月13日（学習報告会について）

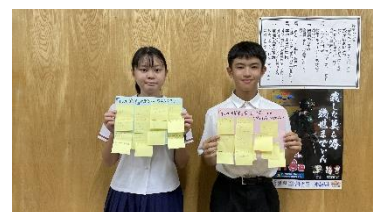
- 告知動画



令和4年度宜野湾市平和祈念事業『家族で始める平和教育』告知動画

▲市民イベント告知動画のナレーターを、平和大使が担当しました

- 長崎派遣の振り返り学習



11月28日、今年度長崎に派遣された平和大使と一緒に、長崎派遣に行けなかった平和大使に、学びの共有や意見交換を行いました。

# 学習報告会（12月6日）

日時：令和4年12月6日（火）18：00～

場所：宜野湾市役所 多目的会議室

1. 長崎青少年ピースフォーラム修了証書授与・・・宜野湾市長 松川 正則
2. あいさつ・・・宜野湾市長 松川 正則
3. スライドショー・・・事務局
4. 平和大使による研修報告
5. 講評・・・宜野湾市教育委員会 教育長 仲村 宗男
6. その他
  - ・今後の日程について



▲青少年ピースフォーラム修了証書を受け取りました



▲各研修についてスライドショーとともに報告



▲これまでの研修で学習したことを報告



これからも学びを止めずに、  
「真の平和とは」について考えていきましょう





# 研 修 報 告

# 研修報告



## 平和大使活動報告

普天間中学校 1年 屋慶名 夏葵

私が平和大使として一番最初の活動は、「沖縄の事前学習」でした。「沖縄の事前学習」では、嘉数高台公園、アブチラガマ、平和祈念資料館へ行きました。嘉数高台公園ではアメリカ軍がどこから攻めてきたのかを学びました。アブチラガマでは、昔戦時中に陣地壕として利用されていた洞窟です。私たちはアブチラガマの中に入って戦時中の様子がどんなだったかを、聞きました。平和祈念資料館では、前田ハルさんのお姉さんが証言した話を読んだり、戦時中の写真を見たりしました。

二番目の活動の「長崎派遣」は私が、コロナに感染して現地には行けませんでした。しかし、自分なりに長崎について調べてみました。調べたのは原爆についてです。原爆とは、核分裂と同時に中性子が飛び出し一気に連続して核分裂が起こることによって巨大なエネルギーが出ます。このエネルギーを兵器に利用したのが原爆です。また、長崎に落とされた原爆と広島に落とされた原爆は違う物だと知りました。長崎の原爆はインプロージョン方式と呼ばれるもので、核分裂物質を火薬で取り囲んで密閉し、爆発力で中心部を圧縮するものです。一方広島の原爆は、ガン・バレル方式というもので金属の筒の両端に核分裂物質を少ない2つに分け、火薬を使い合体させるものです。2つの原爆が違う物でも両方多くの人々の命をうばったことには、変わりはありません。

平和大使としての活動を終え私は、次は自分たちの番だと思いました。沖縄・長崎の戦争を学んだ私たちがこの事実を伝え世界から戦争をなくすにはどうしたらいいか、考えていこうと思いました。

My 平和宣言

周りの話を聞いてみんなが楽しくなれるよう行動していく！

研修報告

屋慶名夏葵 宜野湾市平和大使



私は長崎派遣には行けませんでした。でも事前学習で、アブチラガマに入って当時の様子を体験したり、博物館で写真を見たりして戦争のひどさを知りました。後の人々に伝えるのが大切だと思いました。

井普天間中学校 井命どっ宝 井世界平和

# 研修報告



## 平和大使事業報告

普天間中学校 1年 儀間 生吹

僕は、宜野湾市の平和大使として、沖縄戦についてのフィールドワークや、長崎での平和祈念式典などに参加して、平和について学習してきました。様々な学習を通して、僕が特に感じたことは、「どんな理由があろうとも、戦争を起こしてはいけない。」ということです。沖縄戦についてのフィールドワークでは、アブチラガマという陣地壕へ行きました。アブチラガマの中は、足場がとても悪く、ライトを照らさないと何も見えないほどの暗闇でした。戦時中のガマでの生活の大変さと、苦しさを感ぜさせられました。平和祈念資料館では、証言者の話を調べたり、ナツカさんが調べた証言者の話を聞いて、より沖縄戦について理解が深まりました。そして、長崎派遣では、長崎に落とされた原爆について学習してきました。原爆資料館では、当時長崎に落とされた原爆と同じ大きさのレプリカや、原爆が落とされた時の映像を見て、想像を越えるような恐怖を感じました。また、ピースフォーラムに参加し、全国から集まった平和大使と交流しながら、戦争や争いの起こる原因やそれらの解決策について話し合いました。他にも、平和祈念式典に参加し、その中で特に印象に残った言葉は、長崎市長がお話していた「微力だけど無力じゃない」という言葉でした。一人一人の力は小さくても、みんなで「戦争はダメだ」と声を上げることは大きな力になると感じました。沖縄や長崎での戦争について学習して、沖縄や長崎であったことは、二度と起こしてはいけないと思うと同時に、「どんな理由があろうとも戦争は起こしてはいけない」と、いろいろな人に伝えたいと思いました。また、平和大使として戦争や平和について考え、自らにとっても良い経験になりました。平和学習として学んだ事を活かして、これからも友達などいろいろな人に伝えていけるようにしたいです。

My 平和宣言

価値観を尊重して思いやりをもって行動する

研修報告

儀間 生吹 宜野湾市平和大使



僕は平和大使で長崎の原爆投下について学習して、平和の大切を感じました。原爆資料館で見た、実物大の原子爆弾が大きく、怖くなりました。また、ピースフォーラムで全国から集まった平和大使と意見交換し、平和について考えさせられました。なので、戦争のない平和の世の中が大切だと思いました。

井長崎を最後の被爆地に #女己愛人 井普天間中学校

# 研修報告



## 平和大使育成事業で学んだこと

真志喜中学校 1年 照屋 愛心

もし、今この瞬間、原子爆弾が落ちたら。8月9日午前 11 時2分、私は犠牲者に黙とうを捧げました。

私は平和大使育成事業を通して初めて長崎へ訪れました。そこはかつて原子爆弾が落ちたとは考えられないほどの美しい街並みでした。きっと77年前もあの日も変わらない日々を過ごしていたでしょう。

長崎原爆資料館には 11 時2分で時が止まった柱時計。熱によってガラスとくっついてしまった手、爆風により大きく変形した鉄筋、さらに全身熱傷の少年や顔の原型をとどめていない男性、背中に熱線で大きな深い傷を負った男性の写真など、想像以上の無残で残酷な現実がありました。「何でこんな目に合わなきゃいかなかったの?」と訴えられているようで、目をそらそうにもそらせずしばらくその場を離れられませんでした。様々な場所を訪れた中、長崎市永井隆記念館にも訪れました。色々な永井博士のメッセージを読んでふと目に止まったものがありました。それは如己愛人、己の如く隣人を愛せよ。つまり、自分を愛するように、まわりの人を愛しましょうということです。このメッセージは原爆だけではなく、今現在ロシアによるウクライナ侵攻や戦争というものがいかに恐ろしいものかを考えさせられる言葉でした。

現在、世界中には核兵器が約 16,000 発以上あるといわれています。なぜ、核兵器はなくなるのでしょうか。一体どうしたら核兵器はなくなるのでしょうか。「長崎を最後の被爆地に」日本は唯一の被爆国としてこれまで訴え続けてきました。核兵器をもっていることで自分の国の安全を保とうという考えが本当にあたっているのでしょうか。平和を求める気持ちがあるのならば、核兵器はなくすべきです。被爆者の平均年齢が 80 歳を超えた今、私たち若い世代が訴えかけていかなければならない、そう感じています。

一日でも早く、核兵器のない平和な世界を目指して。

My 平和宣言

相手の意見を尊重し、常に人を勉強し、自分も成長すること

# 研修報告

照屋 愛心

宜野湾市平和大使



私は、平和大使育成事業を通し、沖縄戦や長崎の原爆投下、平和のありがたさを勉強させていただきました。さて、今世界は平和であると言えるのでしょうか。私は言えないと思います。紛争や情勢の悪化による争いがニュース番組で毎日おに放送されています。そして、その争いにより毎年多くの人が犠牲になっています。日本もかつて戦争を遂げた。そして原爆の影響を受けた被爆者は放射線を受け、後遺症で原爆投下から77年未だ今でも酷い差別を受けています。このような悲劇があり、だから私は今、世界が平和ではないと思いました。戦争や、原爆投下は、大切な家族や、大切な命を奪う残酷なものです。大切なことをした悲しみは語り知れません。だから、こんな悲しみばかり生み出す戦争など、あってはならないのです。ですから戦争を乗り越え争いのない国を実現させ日本から戦争、原爆の悲劇、平和の尊さを世界に広めたいかならないのです。私は、戦争や原爆の悲劇、平和の尊さをずっと訴え続けます。それが「平和な世界」の実現のために少しでも役立つと信じて。

#長崎を最後の被爆地に ● #平和な世界を求めて ● #宜野湾市立真志喜中学校



# 研修報告



## 平和大使育成事業を通して

真志喜中学校 1年 宮城 杏

私はこの平和大使育成事業を通して、戦争を体験した方々の想いが分かり、改めて戦争はおそろしいものだと感じました。

まず、私は事前学習に参加できなかったのですが、石原さんのお話から軍事的な力でつくる平和と、軍事的な力を使わず外交でつくる平和について知りました。

長崎派遣では、一日目に爆心地から1キロメートル以内にある城山国民学校と山王神社を見学しました。城山国民学校では当時の人々の思いがつつられていて胸がしめつけられ、山王神社では被爆した鳥居とクスノキを見て原爆のおそろしい威力を知りました。二日目は爆心地付近に移動し、被爆当時の地表を見たり、ピースフォーラムで戦争疑似体験をしたり、原爆資料館でファットマンを真近で見たりして、戦争を真近に感じて大切な人を戦争で失う悔しさが分かりました。三日目は平和祈念式典に参加した後、ピースフォーラムに参加しました。ピースフォーラムでは争いについて全国の人々と一緒に考え、それぞれの地域で行っている平和学習を伝え合いました。東京の新宿区などでは平和マップというものもつくっているそうです。その後、事後学習では皆で学んだことをまとめて振り返ることでより学びを深めて、市民イベントで自分が目指したい平和を伝えることができました。

私は今回の学習を通して戦争についてたくさん知り、戦争により危機感を感じました。ウクライナ、ロシアの問題や台湾問題による国同士の緊張が高まっている今、私は戦争に危機感を感じ、明日は我が身なのかと考えています。

私が平和大使になったのは、まずは自分が動かないと世界は変えることができないと考えたからです。これからはこの学習を活かし、戦争に生活がおびやかされないように積極的に動いていきたいです。

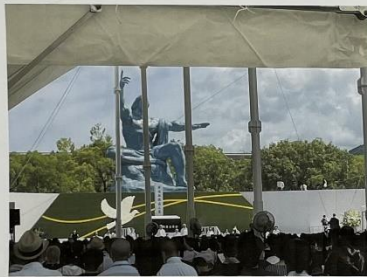
My 平和宣言

良い解決策を見つけても、そこで終わらず、さらに良い策を見つけ出す



研修報告

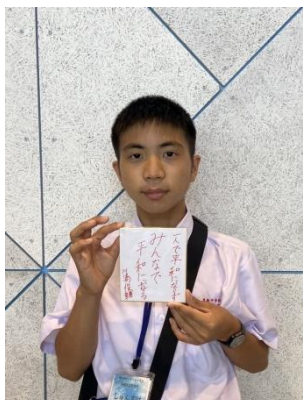
宮城 杏 宜野湾市平和大使



私は、平和学習を通して戦争を問題解決の方法として考えてはいけなかったと思います。なぜなら「争いの原因と防ぎ方」について話し合ったとき、『争うことで問題を解決できる、と考えているから争いは起きる』という意見がでて、とても納得したからです。なので、あまりにも大きな犠牲のする戦争は問題解決への正しい道ではないと思います。

井微力だけ無くない井長崎を最後の被爆地に井真志喜中学校

# 研修報告



## 沖縄と長崎が教えてくれたこと

嘉数中学校 1年 川満 俊輔

7月8日、松川市長より任命を受け、僕たちの平和大使としての活動がスタートしました。

僕たちは、事前学習で沖縄戦のあとが色濃く残るアブチラガマに入りました。アブチラガマの中はライトを消すと、何も見えなくなりました。戦争中はこの真っ暗闇の中、お腹を空かし、不安な気持ちで何日も過ごしていたことを想像すると、僕だったら怖くて耐えられないと思いました。

また、実際に長崎県の爆心地に行き、被爆者の話を聞いたり、平和祈念式典に参加したりしました。原子爆弾によって、建物や人間が一瞬にして焼き尽くされたことにとても心が痛んだと同時に、『平和』のありがたさに気づくことができました。

県内外の平和大使たちが集まり、ピースフォーラムも開催されました。そこでは「戦争や争いはなぜ起こるのか」と「その解決策」について話し合い、交流を持ちました。

今回の平和大使の活動を通して、現地で見えて聞いて学んだことを、「悲しく苦しい戦争を二度と繰り返してはいけない。」と強く感じ、多くの皆さんに伝えたいと思いました。

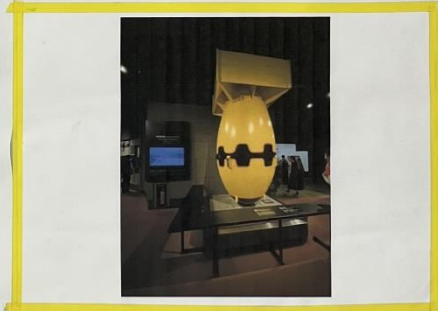
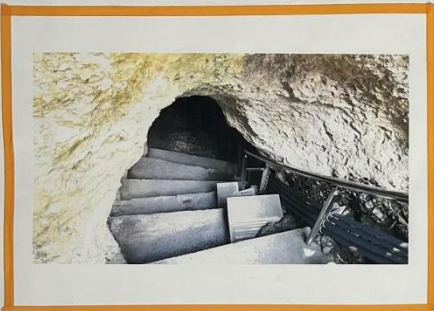
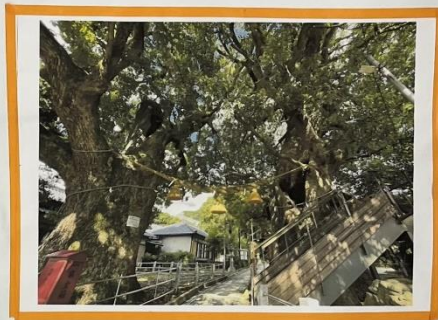
最後にこのような貴重な体験をさせて下さった宜野湾市役所の皆さま、活動を共にし、一緒に学んだ仲間たち、どうもありがとうございました。

My 平和宣言

一人で平和にならず、みんなで平和になる

研修報告

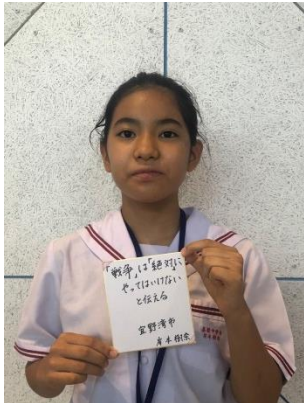
川満 俊輔 宜野湾市平和大使



僕はアブチラガマと平和公園の爆心地がとてもこわいと感じました。なぜならアブチラガマは足場が悪く天井が低いところがあったからです。さらに懐中電灯を消すと目の前も足元も見えなくなったからです。平和公園の爆心地ではガイドの方が「原爆は上空500mで爆破し、爆心地から1kmは全滅した。」という説明を聞いたからです。だから僕はアブチラガマと平和公園の爆心地がとてもこわいと感じました。これが僕は1945年8月9日11時02分に起きた、長崎の悲惨な出来事をたくさんの人に伝えたいです。

井長崎最後の被爆地に 井No war 井嘉敷中学校  
井アブチラガマ 井南城市玉城緑数 井平和公園長崎県

# 研修報告



## 平和大使活動報告

嘉数中学校 1年 岸本 樹奈

私が平和大使になって、印象に残っていることは三つあります。

一つ目は、沖縄県南城市の糸数アブチラガマです。なぜなら、沖縄戦で実際にあったガマに入り、7月8月の真夏とは思えないほど寒く、懐中電灯を十本照らしてもほぼ足もとが見えないほどのうす暗さでした。

また、二つ目は、長崎原爆資料館です。

なぜなら、そこには、被爆の状況を表す写真や資料を収集・展示し平和学習を行うためのホール、平和学習室などがあり、分かりやすく被爆の事が書かれておりました。

そして最後の三つ目は、8月9日に行われた長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典です。

なぜなら、犠牲者の今年最後の歌や犠牲者の体験のお話や岸田総理などが献花をしていました。

なので、私は平和大使になって学んだ事は大切にしながら「平和」「命どう宝」をみなさんに伝えていきたいです。

My 平和宣言

「戦争」は「絶対」にやってはいけないと伝える

研修報告

岸本 樹奈

宜野湾市平和大使



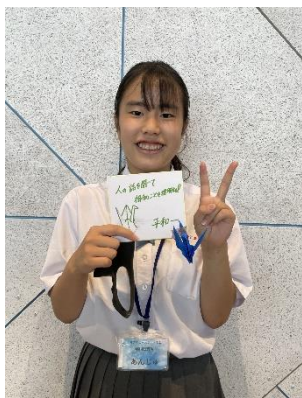
「戦争は絶対にあてはいけない」

私は、この沖縄の事、長崎の事を学習して、もっと周りの人、世界の人に、「戦争の恐ろしさ、人の命の尊さ」をより多くの人に知ってほしいと思いました。

この平和大使に参加したからこそ、多くの事を知れたと思うので、この学びを活かしたいと思いました。

井 平和大使 井戦争 井嘉数中学校

# 研修報告



## 平和大使活動報告

宜野湾中学校 1年 東江 亜珠

私は平和大使になり戦争とはなんなのか、そして平和であるということについて学びました。

7月28日の事前学習では嘉数高台公園へ行き戦争当時そこが激戦地であったことや、アメリカ軍はどこから攻めてきたのかなどを知りました。

バスツアーでは今の地形や町なみと昔を比較し各山々で起こったことを学び、次に平和祈念資料館では戦争体験者の証言を読み住民の立場から戦争についても知りました。

アブチラガマではなかに入り中がどんな様子なのか体験しました。

中はライトで照らしても暗く天井も低くなっていました。時々水滴が降ってきて肌寒くライトを全て消すと本当に真暗で光がまったく入ってきません。私ならずとそこにいたら気分を悪くしてしまうと思います。

長崎派遣では4日間で色々なことを学びました。

1日目には城山小学校平和祈念館に行き小学校にそえられた沢山の千羽づるを見ました。

小学校は上からのばく風により木々が枝一本だけの状態でした。2日目には原爆資料館へ行き77年前長崎に投下された原爆の仕組みやその威力についても学びました。原爆は放射線によって長い間被ばく者を苦しめました。

3日目には平和祈念式典に参列し、次に青少年ピースフォーラムで同じ大使の人々と交流し話し合いました。県によって戦争の学び方も異なっており、日本は世界で唯一の被ばく地であり最後にしなければならぬ場所だから沖縄であった地上戦、長崎、広島であった原爆も、より多くの人々に知ってもらい、そしてこれからは戦争のない世界であるために、まずは自分から人を気遣い人に優しくなる。まずはここから小さな平和を作っていきたいと思いました。

My 平和宣言

人の話を聞いて相手のことを理解する

研修報告

東江亜珠 宜野湾市 平和大使



私は、沖縄での事前学習や長崎派遣で平和について学びました。長崎での原爆投下の話を聞いて私はとても恐ろしいと感じ、そしてもう戦争を起さない世界になってほしいと思いました。

#平和大使 #長崎を最後の被爆地に  
#宜野湾中学校

# 研修報告



## 平和大使で学んだこと

宜野湾中学校 1年 親川 拓海

ぼくがこの平和大使の事業で学んだことは、戦争はやっても、国民を苦しめるだけの自然などの破壊行為だと思います。

なぜなら、戦争体験者の話をきいても、悪い事しか聞かないし、その前に戦争って犯罪じゃないのって思いました。

では今から、この平和事業で心に残っていることをお伝えします。

ぼくが、この平和事業で心に残っていることは、長崎に落ちた原爆のことや、原爆の影響が一番大きかった小学校を見学したりしたことが心に残っています。

原爆については、長崎原爆資料館で原爆の仕組みについて知ったり、長崎の原爆は、爆心地からどれくらいのきよりまで、影響があったのかが分かりました。

また、原子爆弾による被害者は、死者 73,884 人と最も多く、当時の時だけでなく、今でも放射線や放射性物質によって苦しめられている人もいるということが分かりました。

また、負傷者は 74,909 人と死者にちかく、今でも苦しんでいる人がいるんだと思いました。

城山小学校では、爆心地から 500 メートルの距離の場所で、最も近く被害が大きかったです。

その城山小学校では、まだ被害の校舎が残っていて、そこは新しくかいそうして、平和祈念館が立っています。

その中では、原爆が落ちた当時の時の資料などがおいてあり今まで知らなかったのも知れてよかったです。

この平和学習を得て、平和にかんする輪が広がった気がします。

今後、平和について考えてみたり、どうやったら平和について、考えてみようと思いました。

My 平和宣言

相手の意見を尊重する



# 研修報告

## 親川 拓海 宜野湾市平和大使



ぼくは、核弾頭の国の保有数について調べて、長崎や広島に投下された原爆2弾に比べて、多いと思いました。

その理由は、1つの爆弾であんなに被害があるからです。

さらに核は、世界平和条約で禁止されているのに、核を保有している国があることにまどろいたからです。

だからぼくは、核の保有数は、多いと思いました。

長崎を最後の被爆地に、平和大使(長崎) 宜野湾中

# 研修報告



## 平和大使育成事業を通して学んだこと

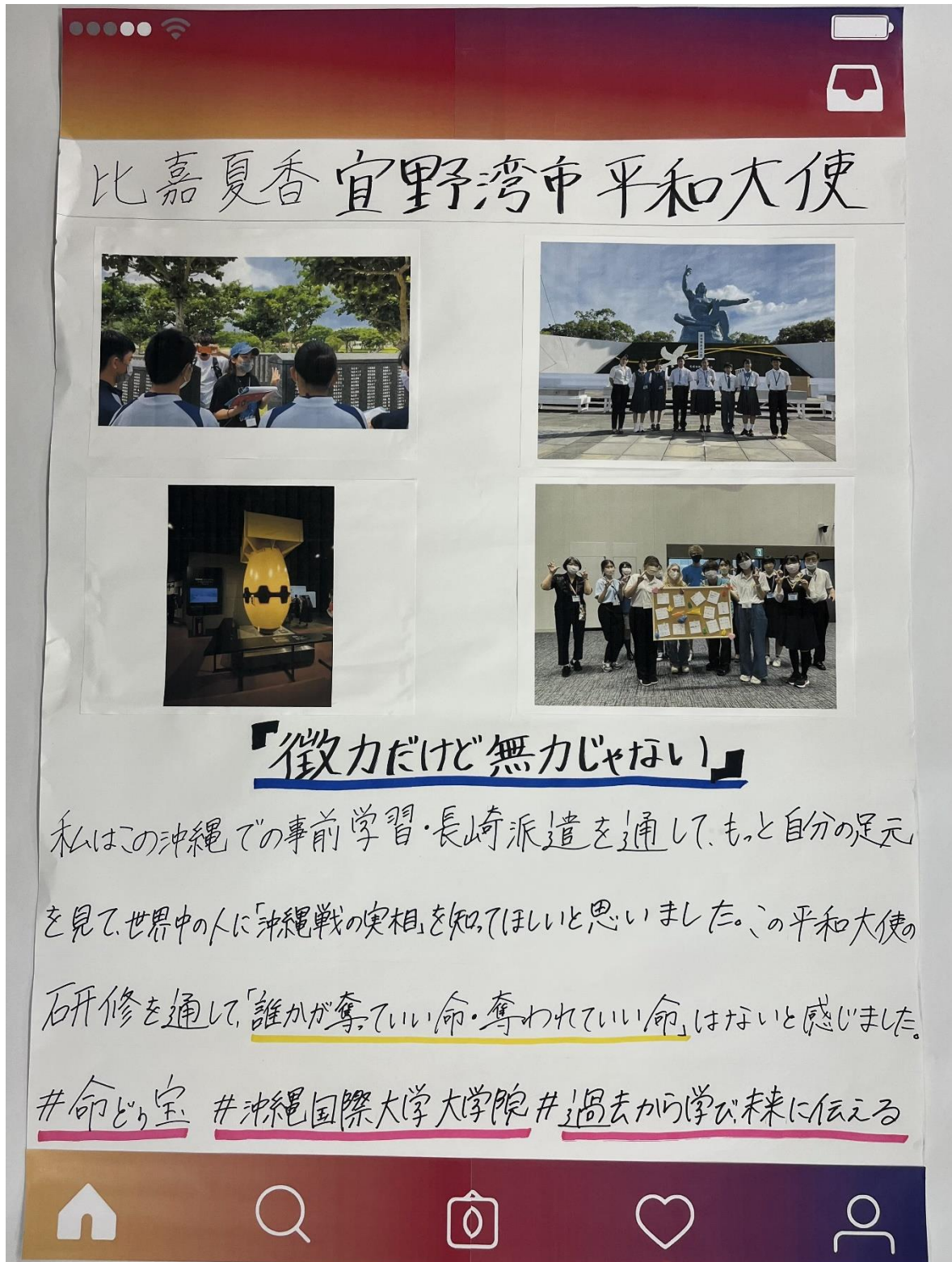
沖縄国際大学大学院 1年 比嘉 夏香

私は、この令和4年度「平和大使」の活動を通して本当に多くの経験と知識を得ることが出来ました。まず、最初に私が皆さんに伝えたいことは、「今ある幸せが当たり前ではない」ということです。私は、沖縄の事前学習で訪れたアブチラガマで忘れられない言葉に出会いました。「命さえあれば希望が持てる。命さえあれば前に進める」というものです。沖縄戦をはじめ長崎原爆などで本当に一人一人の尊い命がとても簡単に奪われてしまいました。今回、沖縄での事前学習を通して、自分が生まれ育ったこの沖縄で過去に、何が起こったのかということを知り、考えることが出来ました。また、長崎派遣を通して学んだことは、今まで知らなかった原爆の実相などを知ることが出来ました。「長崎を最後の被爆地に」この言葉はとても印象的でした。原爆の恐ろしさや悲惨さを繰り返さない為にも、今を生きている私たちが後世に伝えていかないといけないと強く感じました。私はこれまでの教育中で、長崎、広島原爆のことは教科書の中でしか知りませんでした。しかし、実際に長崎へ行き、原爆が投下された場所などを訪れると、とてもリアルで言葉では表せないほど残酷なものでした。被爆者の方々にお話を伺うと、原爆が投下された後でも、被爆者に対する差別などは行われていたようです。例えば、被爆者同士の結婚は許されない等でした。なぜなら、放射能の影響により、障がい児が産まれる危険性があるからということでした。同じ人間、被爆地であるにも関わらず、このような差別に苦しめられていた方々の気持ちになると、とても胸が締め付けられるような思いでした。私はこのお話を聞いて、長崎で出会ったある一つの言葉を思い出しました。当時被爆した長崎を救った、医者であり、父であり、被爆者でもある永井隆博士の言葉です。「如己愛人」己のごとく人を愛せよという意味です。私が思うに、世界中の人々がこの気持ちを持って一人一人の命を大切に思っていれば、必ずみんなが笑って幸せな世界は作られると感じました。私たちの力は「微力だけど無力じゃない。」この平和大使の活動を通して、過去から学び未来に伝える。これが今生かされている私たちの使命です。

My 平和宣言

世界中の一人一人の努力を掛け算し、ゆいまーるな世界を作っていきたい

研修報告



「徴力だけど無力じゃない」

私はこの沖縄での事前学習・長崎派遣を通して、もと自分の足元を見て、世界中の人に「沖縄戦の実相」を知ってほしいと思いました。この平和大使の研修を通して、「誰かが奪っていい命・奪われていい命」はないと感じました。

#命とり宝 #沖縄国際大学大学院 #過去から学ぶ未来に伝える

## 令和3年度平和大使 フォローアップ研修（12月27日）

12月27日、令和3年度平和大使を対象としたフォローアップ研修を実施しました。今回の研修では、主に**社会の視点**（戦争がどのように起きたのか）と、**個人の視点**（戦争が一人一人にどのような影響を与えたのか）を繋げて考えました。

### 研修行程

1. 対馬丸記念館（那覇市）  
△昼食（瀬長島）
2. ひめゆり平和祈念資料館（糸満市）
3. ひめゆりの塔（糸満市）
4. 平和の礎（糸満市）



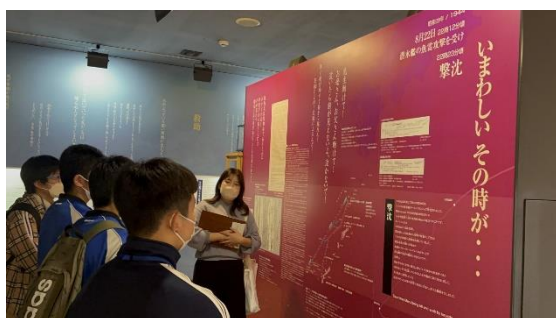
### フォローアップ研修とは？

本市では、沖縄戦の実相や平和について次世代へ継承できる人材の育成及びスキルアップ向上を図るため、平和大使に認定された年のみの活動ではなく、**次年度も継続して研修を実施**しています。



### ● バス車内

沖縄戦の始まり、沖縄戦の特徴（根こそぎ動員・軍官民共生共死・本土決戦のための持久作戦）等について、昨年の研修を振り返りながら学習しました。



### ● 対馬丸記念館

対馬丸事件がなぜ起こったのか、子どもやお年寄りが県外に疎開するまでの経緯、疎開した子どもや親の心境、当時の子どもたちが戦争とつながるきっかけ等を館内の展示物から探し、社会と個人の2つの視点から対馬丸事件について学習しました。



## 令和3年度平和大使 フォローアップ研修（12月27日）



### ● 昼食（瀬長島）



### ● ひめゆり平和祈念資料館・ひめゆりの塔

今と変わらない日常を送っていた生徒たちが、戦争が近づくにつれて学校生活がどのように変化したのか、学徒隊は沖縄戦の中でどうなったのか、戦後生き残ったひめゆり学徒について等、戦中のみ学びではなく、『戦前→戦中→戦後』を繋げて学ぶことができました。また、証言にでてきた亡くなった学徒の方について、それぞれ調べました。ひめゆりの塔では、その方を思いながら黙祷を捧げました。



### ● 平和の礎

加害者・被害者分け隔てなく5つの国と地域の犠牲者の名前が刻銘される意味について、平和の礎が世界に向けてどのようなメッセージが込められているのか等学びました。また、検索コーナーを使用し、沖縄戦で亡くなった親族のお名前を探すこともできました。

#### 研修を終えての感想

- ・戦争がいかにダメな事か、平和であることがどれほど幸せかを伝えたい
- ・自分たちと同じように、好きなスポーツがあったり先生にあだ名をつけていたのが、とてもびっくりした。そんな人たちが、たくさん亡くなったことを知って、より戦争の悲惨さを学べた。



# 令和3年度平和大使 フォローアップ研修

## ● 研修後の課題

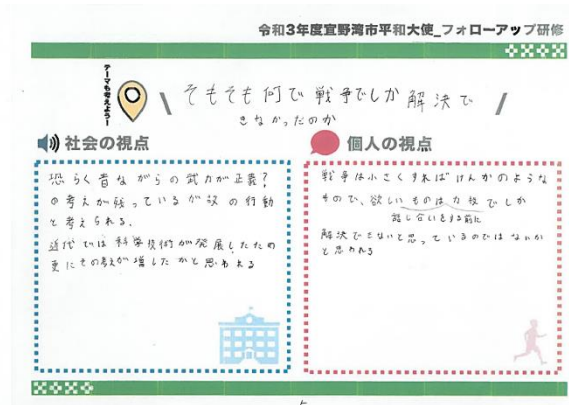
研修を終えた後は、「社会の視点と個人の視点」から自分でテーマを決め、ワークシートにまとめました。研修に参加できなかった平和大使も、同じ課題に取り組みましたので、ご紹介いたします。

### 普天間中学校 2年



小橋川 菜夏

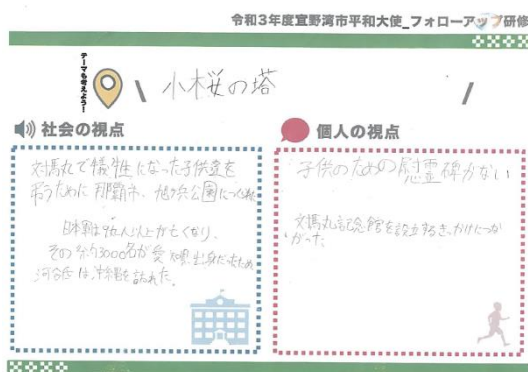
（戦後60年以上の時を経て、父が対馬丸沈没により亡くなったことを知った遺族について）



川満 咲季

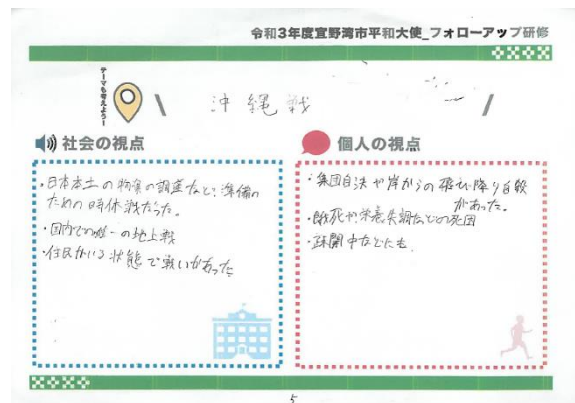
テーマ：そもそも何で戦争でしか解決できなかったのか

### 真志喜中学校 2年



宮城 亮太

テーマ：小桜の塔



又吉 竜生

テーマ：沖繩戦

# 令和3年度平和大使 フォローアップ研修

嘉数中学校 2年

令和3年度宜野湾市平和大使\_フォローアップ研修

📍 本土復帰について

🗣️ 社会の視点

ドル → 円  
右車線 → 左車線

● 個人の視点

「やっと復帰できる」  
「基地はどうなる？」  
「色々な事が変わって少し不安」

● 社会の視点

● 個人の視点

● 社会の視点

● 個人の視点

山城 暁  
テーマ：本土復帰について

令和3年度宜野湾市平和大使\_フォローアップ研修

📍 沖縄の日本復帰

🗣️ 社会の視点

● 個人の視点

● 社会の視点

● 個人の視点

我如古 悠士  
テーマ：沖縄の日本復帰

宜野湾中学校 2年

令和3年度宜野湾市平和大使\_フォローアップ研修

📍 箱口令

🗣️ 社会の視点

● 個人の視点

● 社会の視点

● 個人の視点

仲村 将琴  
テーマ：箱口令

令和3年度宜野湾市平和大使\_フォローアップ研修

📍 体験者の戦後を伝えよう - 慶良間を事例に -

🗣️ 社会の視点

● 個人の視点

● 社会の視点

● 個人の視点

石川 勇人  
テーマ：体験者の戦後を考えよう - 慶良間を事例に -

# 宜野湾市平和大使育成事業実施要綱

○宜野湾市平和大使育成事業実施要綱

令和2年11月2日

告示第148号

改正 令和4年3月8日告示第26号

(趣旨)

第1条 この要綱は、世界平和を希求する「宜野湾市反核、軍縮を求める平和都市宣言」の理念の下、戦争の悲惨さ、平和の大切さ及び命の尊さを次代へ継承する人材(以下「平和大使」という。)を育成するため、平和大使に関する基本的な事項を定めるものとする。

(用語の定義)

第2条 この要綱における定義は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 平和大使 戦争の悲惨さ、平和の大切さ及び命の尊さを時代へ継承する者をいう。
- (2) 青年層 おおむね20歳から39歳までの者をいう。

(平和大使の資格要件)

第3条 宜野湾市立中学校長、市内に所在する高等教育機関及び社会教育関係団体の所属長が平和大使に推薦する者は、次の要件を全て満たさなければならない。

- (1) 宜野湾市立中学校に在籍し保護者の承諾が得られる生徒又は宜野湾市内に住所を有する青年層若しくは市内に所在する高等教育機関や社会教育関係団体に所属する青年層
- (2) 青年層については、市税等を滞納していない者
- (3) 過去に本市の平和大使として任命されていない者
- (4) 現に本市の職員でない者
- (5) 健康で5日間程度の県外生活に耐え、団体行動のとれる協調性のある者
- (6) 思想、信条、宗教の如何を問わず市の平和事業に関心があり、広く平和を愛する者



# 宜野湾市平和大使育成事業実施要綱

(平和大使の選任)

第4条 平和大使の選任については、次に掲げるとおりとする。

- (1) 各宜野湾市立中学校の生徒を2名ずつ選任する。
- (2) 本市に所在する高等教育機関又は社会教育関係団体の青年層を若干名選任する。

(平和大使の決定)

第5条 市長は、選任された者のうち、特にふさわしいと認められる者を平和大使として任命し、平和大使認定証を交付するものとする。

2 宜野湾市立中学校から選任され、平和大使として任命された者から辞退の申出があったときは、同一中学校から選任するものとする。この場合において、前項の規定を準用する。

(平和大使の役割)

第6条 平和大使は、平和行政担当課の計画する県内の各戦跡等の研修(以下「県内研修」という。)及び長崎市、広島市等での研修(以下「県外研修」という。)に参加し、平和への認識を深めるとともに、研修終了後も市が行う平和推進事業に積極的に参加し、戦争の悲惨さ、平和の大切さ及び命の尊さを次代へ継承するものとする。

(費用負担)

第7条 平和行政担当課の計画する県内研修及び県外研修に係る費用については、平和大使に対し、予算の範囲内において市が負担するものとする。

(平和大使の登録)

第8条 第6条に規定する研修を修了した者は、平和大使名簿に登録されるものとする。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、市長が定める。

附 則

この告示は、公布の日から施行する。

附 則(令和4年3月8日告示第26号)

この告示は、令和4年4月1日から施行する。

## 世界平和を希求する 反核・軍縮平和宣言都市



### 平和都市宣言

我々宜野湾市民は、第二次大戦の悲痛な教訓を生かし、反核、軍縮を求める平和都市として次のとおり宣言する。

- 我が国は、非核三原則を国是としており、今後ともその基本理念である反核を全国民が連帯して推進しなければならない。
- 宜野湾市民は、宜野湾市を永久に反核、軍縮を求める平和都市とすることを決意し、人類の滅亡につながる核兵器の廃絶と軍備の縮小を核保有国に強く求める。
- 我が宜野湾市民は、子孫の繁栄を願い、世界平和を希求する諸国民と連帯して、米ソ両国に反核、軍縮を強く求め、恒久平和を築くため、全力を尽くすことを誓う。

1985年（昭和60年）3月18日  
宜野湾市

# 宜野湾市 歴代平和大使

令和2年度	名簿 番号	氏名	学校名・ 団体名	学年	
	1	オオカワ 大川	レイシュ 麗 樹	普天間中学校	1年
	2	ナカムラ 仲 村	モア 萌愛	普天間中学校	1年
	3	ミヤギ 宮城	ホノコ 穂乃子	真志喜中学校	1年
	4	マツダ 松田	リア 梨愛	真志喜中学校	1年
	5	ナゴ 名護	タカシ 天 志	嘉数中学校	2年
	6	ナカマ 名嘉真	ハルネ 遥音	嘉数中学校	2年
	7	オオシロ 大 城	ユカ 夕夏	宜野湾中学校	1年
	8	トウマ 當間	ココナ 心 栞	宜野湾中学校	1年
	9	ノムラ 野村	ミイメ 美 芽	沖縄国際大学	1年
令和3年度	10	コバシカワ 小橋川	ライカ 萊 夏	普天間中学校	1年
	11	カワミツ 川 満	サキ 咲季	普天間中学校	1年
	12	ミヤギ 宮城	リョウタ 亮 太	真志喜中学校	1年
	13	マタヨシ 又 吉	リョウ 竜生	真志喜中学校	1年
	14	ヤマシロ 山 城	アキ 暁	嘉数中学校	1年
	15	ガネコ 我如古	ユウシ 悠士	嘉数中学校	1年
	16	ナカムラ 仲 村	マコト 将 琴	宜野湾中学校	1年
	17	ホンマ 本間	ショウヤ 翔 也	宜野湾中学校	1年
	18	イシカワ 石 川	ユウト 勇人	沖縄国際大学 大学院	1年

令和4年度	名簿 番号	氏名	学校名・ 団体名	学年	
	19	ヤケナ 屋慶名	ナツキ 夏 葵	普天間中学校	1年
	20	ギマ 儀間	イフキ 生 吹	普天間中学校	1年
	21	テルヤ 照屋	アイミ 愛 心	真志喜中学校	1年
	22	ミヤギ 宮城	アン 杏	真志喜中学校	1年
	23	カワミツ 川 満	シュンスケ 俊 輔	嘉数中学校	1年
	24	キシモト 岸 本	ジュナ 樹 奈	嘉数中学校	1年
	25	アガリエ 東 江	アンジュ 亜 珠	宜野湾中学校	1年
	26	オヤカワ 親 川	タクミ 拓 海	宜野湾中学校	1年
	27	ヒガ 比嘉	ナツカ 夏 香	沖縄国際大学 大学院	1年

## 平和コンテンツのご紹介



### ぎのわん市の沖縄戦 ～ “あの日の記憶”を語り継ぐ～ ( 戦争体験者の証言映像 )



本市在住9人の戦争体験者の証言映像 (YouTube) を視聴できます。その他にも、市内戦跡マップやマンガもあり、戦争とは？平和とは？について学習できるページとなっています。

( R2 年度平和祈念事業にて制作 )



### 宜野湾市平和大使活動報告 ホームページ



宜野湾市平和大使の活動様子を、ホームページに掲載しています。H17年度からスタートした本事業のこれまでの報告書も見ることができますので、ぜひご覧ください。



発行：沖縄県 宜野湾市  
市民経済部 市民協働課 平和交流係

---

〒901-2710 沖縄県宜野湾市野嵩 1-1-1

TEL : 098-893-4119

FAX : 098-892-7022

H P : <https://www.city.ginowan.lg.jp/>